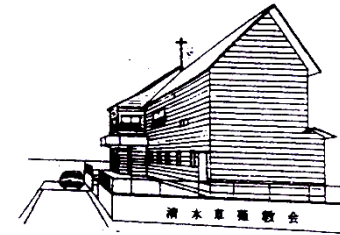


《今朝の聖書から》

毎年、御霊が降った日、聖霊降臨日（ペンテコステ、五旬節ともいいます）を迎えます。この記念日についてみてみましょう。ペンテコステというのはギリシャ語からきていて、50番目という意味です。過ぎ越しの祭りに続く、“種をいれないパンの祭り”で大麦の初穂を捧げてから、七七49日経った次の日、50日目にあたります。この日は旧約聖書における解釈からすると、小麦の収穫の始まりを告げていることにもなります（出エジプト記23：16、34：22、申命記16：10）。申命記16：16では、“イスラエルの男子は年に三回、主の前に出る”ことが定められていますが、この日がそれになります。さらに、モーゼが十戒を授けられたことを記念する日にもなり、後に散らされたユダヤ人たちが、エルサレムに巡礼に来る日にもなりました。このような背景がありますが、キリスト教会にとっては、使徒行伝1、2章の出来事があった日のユダヤの暦による日になります。この日は“教会（界）＝エクレシアの誕生日”ということもできるでしょう。主が語られたように、聖霊が与えられ、諸国の霊的な刈り入れが、始められたのです。三千人の初穂が地上に与えられたのです。巡礼のために多くの人が集まる時と場所が選ばれたこともよく分かります。もう一人の助け主（ヨハネ16：14）なる方は、聖霊なのです。信仰者に伴い、宣教するものを励まし、勇気づけ權威を与えられたのです（ローマ15：19）。律法は旧約において、二枚の石の板に刻まれましたが、いまや、聖霊によって信じる者の心に刻まれたのです（ヘブル8：10）。この時以来、洗礼（バプテスマ）は、私たちが知っているように、また経験したように、父と子と聖霊の名によって、その力のもとにあって行われることが意味をもつようになりました。英語でWhitesundayと呼ばれることがあるのは、洗礼を受ける人々に、白い衣が用いられたことから始まっているのです。私たちの心の中に、二枚の板に、昔に記された神様の救いの約束が、御霊によって、今も、書き消すことのできない言葉として刻まれているのでしょうか。もう一度読んでみましょう。神様の言葉が読めた時、信仰は素晴らしい人生の道しるべとなり、読むことができないとき、空虚な滅びが待っているのではないのでしょうか。永遠の命から切り離されたとき、たかだか百年ほどの人生、少しばかり、やり甲斐のあることができれば、それ以上に何があるのでしょうか、という、本当に一時的な思いが待っているだけなのです。

週報

2008年 5月 4日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸